

## 札幌駅で「防災の日」街頭啓発活動を実施

～2018年北海道胆振東部地震から5年。平時から災害への備えを～

日本損害保険協会北海道支部(委員長:加川 克仁・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 北海道地域担当 執行役員)では、関東大震災から100年を迎える9月1日「防災の日」に、札幌駅南口で防災を呼びかける街頭啓発活動を行いました。

当日は、通勤中の通行人などに、地震保険啓発チラシとポケットティッシュを約500部配布しました。啓発チラシでは、「全国にはまだ発見されていない活断層が多くあり、大地震は日本全国どこでも起こり得る」「札幌市でも大地震によって市街地の大部分で震度6弱以上の激しい揺れが起こり、広い範囲で建物被害が発生すると予想されている」と地震リスクを紹介し、被災すると生活再建にお金がかかるため、経済的な備えとして「地震保険」が有効であることを伝えています。

北海道では、2018年9月6日に発生した胆振東部地震から5年を迎えます。地震発生時の道民の暮らしを守るため、当支部では、本活動等を通じて地震リスクや地震保険の必要性を広く呼びかけ、地震保険の理解促進および加入促進を図っていきます。

### ■街頭啓発活動の様子



### ■地震保険啓発チラシ (札幌市版)

### <関連リンク>

- ・協会各地の活動>北海道支部「北海道独自の地震保険啓発チラシを作成」(2022年9月14日)  
[https://www.sonpo.or.jp/news/branch/hokkaido/2022/202209\\_01.html](https://www.sonpo.or.jp/news/branch/hokkaido/2022/202209_01.html)